



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.47
2014年 6月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

水稲栽培始まりました！！

日本は6月、ワールドカップで盛り上がったと思いますが、カンボジアの人々もワールドカップに熱狂しています。ちなみに、カンボジアにもプロサッカーリーグがあり、日本人選手が10人くらいいます。

今月からいよいよ田植えが始まりましたので、今月はその様子と今年度の水稲栽培への取り組みについてお伝えいたします。

① 田植え

6月は約5反(≒5,000㎡)の水田に田植えをしました。田植えをする為には苗と水田の準備が必要なので、5月上旬に種粃を田植えする水田とは別の水田に播種し、苗を育てました。また、田植え直前に代かき(水田に水を入れ、トラクターで土と水をかき混ぜることで田植えをしやすくする作業)を行い、水田を田植えがしやすく苗が育ちやすい環境にしました。

田植え当日、午前中は別の水田にある苗を引き抜いて田植えできるようにしました。田植えの作業も大変ですがこの作業も同様に大変です。田植えより達成感を感じにくいので、田植えよりも大変といえるかもしれません。写真にあるように手で苗を引き抜き、ある程度集まったらやしの葉でつくったひもでまとめます。これを田植えする水田に運び、午後から田植えです。田植えは去年同様、ひもを張って30cm間隔で植えました。去年からいるスタッフは慣れているので問題ないのですが、今年から入ったスタッフが始め若干苦戦し、列が少し曲がってしまいましたが徐々に慣れ、真っ直ぐきれいに植えることができるようになりました。暑い中の作業になりましたが、1時間ごとに休憩するなど体調面には気を使いながら1日で1枚(約1.4反)の水田の苗取りと田植えを終わらせることができました。今年度はスタッフも増えたため、今までよりも早く終わらせることが出来ました。スタッフは皆小さい頃から家族や親戚の田植えを手伝っているため、日本人職員よりもかなり早く植えます。お米への意識は高いので、他の作業よりも真面目に一生懸命作業してくれました。



苗取りの様子。地味ですが田植えと同じくらい大変な作業です。



田植えの様子。今年もひもをはって30cm間隔で植えました。

1期作目の稲刈りは9月上旬頃です。そして、2期作目の田植えを10月上旬までに終わらせ、1月中には稲刈りを終わらせる予定です。1月には乾季に入るため、10月上旬までに田植えを終わらせることが2期作を成功させるために重要なことです。しっかりとやりきって昨年度以上の収量をあげることができるようにしたいと思います。

② 2014年度水稲の取り組みについて

SAJ Farmでは2010年度から水稲の栽培をはじめ、2011年度から2期作に取り組んできました。2期作での反収(1反≒1,000㎡当りの収穫量)は2011年度226kg、2012年度295kg、2013年度306kgと徐々にですが増やしていき出ています。ちなみに、カンボジアの平均反収は約300kg(2011年度、国際連合食糧農業機関(FAO)調べ)、地元の農家さんの話だと農場周辺の反収が200kgくらいなので、本格的に有機農業による2期作を始めて3年でカンボジアの平均に追いつき、地域の中では成果を出しているといえます。2014年度は2期作水田では反収350kgを目指しています。また、2013年度からひもを張って田植えをすることで田植えと稲刈りの作業時間を短縮することにも成功しました。しかしながら、2期作を行うには1期作目を6月上旬に田植えしなければいけないのですが、この時期はまだ雨季と乾季の端境期なので水田になかなか水が溜まらずポンプで水をくみ上げなければなりません。そうすると燃料代かかさみ経済的に厳しいものになってしまいます。また、2期作を行うためにはそれだけの養分が必要なのですが、肥料を農場にある全ての水田に確保できていないのが現状です。その為、今年度は約8反の水田で、地元の農家さんが作っている7ヶ月かけて育てる品種の栽培を行うことにしました。7ヶ月米だと田植えの時期が7月上旬と少し遅くできるため、水の問題も少なくなります。また、生育が緩慢な分肥料が少なくても自ら光合成で養分を作り生育することが出来ます。このように今年度は例年通りの2期作で反収を増やし、売上が増えるようにしていく方法と7ヶ月米で省力化し、経費を抑える方法にチャレンジし、経済的に上手くいく方法を模索したいと思います。上手い方法が見つかれば地元の農家さんに講習会で普及させていきたいと思っています。



7ヶ月米は現在育苗中。7月上旬に田植えの予定です。

カンボジアでは今でも牛で代かきをする人が多いのですが、最近は歩行式の耕耘機で作業する人が増えました。心なしかコンバイン(水稲などを収穫する機械)やトラクターを見かける機会も増えてきたように感じます。カンボジアの農業も少しずつ変わろうとしているのだと感じます。そのような環境の中で我々ができる事は何なのか、日々考えながら取り組んでいきたいと思っています。

編集後記

ついにプノンペンにも大型のショッピングモールがオープンしました。私はまだ行っていませんが、カンボジアに今までなかったクオリティという話を多くの方から聞いており、次の休みには早速行こうと考えています。SAJ Farmのレモングラスを日本食レストランで使用していただいているので、カンボジアにお越しの際は是非ともお店で飲んでいただきたいです。今後は野菜も出荷できるように頑張っていきます。

早藤